

一般財団法人 日本リトルシニア中学硬式野球協会信越連盟

大会規定細則

リトルシニア信越連盟（以下「本連盟」という。）の主催する大会すべての運営が円滑に運ばれることを目的として、ここに大会規定細則を定める。

各チームの指導者は、大会参加に当り本細則を熟読され大会の運営にご協力をお願いする。

1. 本連盟の各種大会は、すべて当該年度公認野球規則により行う。
2. 審判員は、本連盟所属審判員があたる。
3. 試合中、規則上の異議申し立てに対する裁定は、当該試合の審判員及び控え審判員において決定する。
4. 本連盟の主催する大会に出場する各チームの選手、監督、コーチは、必ず所定のワッペンを左の肩口に付けた同一のユニフォーム（帽子、アンダーシャツ、靴下、ストッキング、靴、ウインドブレーカーを含む）を着用し、選手の背番号は1～25、監督は30、コーチは40、50、60、70を付けること。尚、スコアラーはスコアラーの仕事のみ行うものとし、ベンチに入らない登録コーチ、登録に関わらず選手のスコアラーを認め、選手以外はベンチにユニフォームではなくスポーティーな服装で入ること。
5. ユニフォーム、帽子、ストッキング、靴、スパイク、コートや、ヘルメット、グローブ、バット、キャッチャー道具、サングラスの使用などについては、別途定める「リトルシニア野球用具の使用規定」による。
6. ベンチ内には、登録選手25名以内と登録した監督、コーチ（2名）、スコアラーの他は入れない。
7. 各試合は、天候並びに球場の都合によって、試合開始を予定時刻よりも早めることがある。
8. 各チームは、試合開始時刻の60分前に球場に到着し、大会本部に通告する。
9. ベンチサイドは、大会組合せ抽選番号の若い方を1塁側とする。
10. 各チームの主将は、第一試合開始時刻の概ね40～50分前、第二試合以降は、前の試合の5回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）に所定のメンバー表5通（放送・相手チーム・審判2通・自チーム）を大会本部に提出し、同時に審判員立ち合いのもとで攻守を決定する。
各チームはメンバー表を作成したならば速やかに審判員室への提出を心がける。
11. 試合開始時間に不在チームは不戦敗とする。
12. 監督、コーチ、スコアラーの変更は、メンバー表提出時までには大会本部に届けること。届け出がないときは、変更者はベンチに入ることができない。
13. シートノック時間は7分以内とするが、大会運営の都合により時間を短縮したり、シートノック無しで試合を開始することもある。尚、シートノック時のボールボーイは、危険防止のため必ずヘルメットを着用する。
14. 各試合は7回戦とし、5回終了をもって正式試合とし、4回終了時10点差、5回終了時以降7点差の場合は、コールドゲームとする。但し、決勝戦はコールドゲームを適用しない。

15. 試合は 2 時間制限試合とし、5 回以降試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングに入らず、制限時間に達した時点でのイニング（表裏）を最終回とし、そのイニング終了時点で同点の場合は、それ以降はタイブレーク方式を採用する。（但し、決勝戦は 2 時間制限試合を適用しない）
- ① 試合が成立するのは 5 回終了なので、4 回以前に 2 時間が経過した場合でも 5 回までは継続して行う。
 - ② 5 回以降、後攻チームがリードしている試合で、後攻チームの攻撃中に 2 時間に達した場合は、その時点で試合を打ち切り後攻チームの勝利とする。
 - ③ 同じく後攻チームがリードしている試合で、先攻チームの攻撃中に 2 時間に達し、後攻チームのリードのまま先攻チームの攻撃が終了した場合は、その時点で試合を打ち切り後攻チームの勝利とする。
16. 7 回終了時同点の場合、2 時間以内であっても延長戦は行わず、タイブレーク方式に入る。タイブレーク方式は、一死満塁で打者は前回正規に打撃を完了した次の打順の打者とする。走者はその打者の前の打順の者が、一塁走者、その前の打順の者が二塁走者、三塁走者は二塁走者の前の打順の者とする。この場合の代打、代走は認められる。
- タイブレーク方式は 3 イニングまで継続できるが、未決着の場合は抽選とする。
- 抽選は審判員が○×其々 9 個のくじを用意し、最終守備、攻撃の 18 人がくじを引き、○の多かったチームを勝ちとする。尚、7 回を終了しタイブレーク方式中に荒天等で試合続行が不可能になった場合は、試合を中断し抽選とする。尚、決勝戦には 2 時間制限を適用せず、延長 9 回終了時なお同点の場合は、10 回からタイブレーク方式に入り勝敗が決着するまで行う。
17. 投手の投球障害を予防するために、「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」を制定する。
- 1 日 7 イニング以内とし、連続する 2 日間で 10 イニング以内とする。また、1 日複数試合に登板した投手、連続する 2 日間で合計 5 イニングを超えた投手（5 イニングは可）及び 3 日間連続で登板した投手は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできない。但し、イニングの端数（0/3・1/3・1/3）は 1 イニングとみなす。
- 各チームの理事は、自チーム投手の投球回数を「投球回数確認シート」に記入し試合終了後、記入事項を両チーム理事・球場責任審判員で確認し、署名（捺印・サイン）を行う。
- 連続する試合の勝利チーム（理事・監督）は、次試合（1 日 2 試合含む）の試合前（メンバー表交換時）に投球回数確認シートを 3 部（コピー 2 部含む）提出し、確認・署名、交換する。
18. 特別継続試合、危険防止措置、臨時代走、ラフプレー、監督の抗議及び通告、その他の事項については、一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会規定集の野球特別規則を適用する。
19. 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内に、走者がいる場合には 20 秒以内に投球しなければならない。違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が 2 度繰り返したら、3 度目からはその都度ボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20 秒の計時をリセットする。なお、適用の詳細については、（参考）公益財団法人日本野球連盟の「投手の 12 秒及び 20 秒ルールの適用に関するガイドライン」による。
20. 選手、監督、コーチ及びスコアラーは、不快感を与えるような長髪、ひげ、茶髪は極力控え、清楚な

恰好で大会に臨むこと。 なおピアスは禁止する。

21.ベンチ内で携帯マイクの使用は禁止する。監督に限りメガホンの使用を認める。

22.ベンチ内で携帯電話、タブレット端末やパソコン等電子機器を持ち込み、外部と情報交換することを禁止する。

23.応援団の用具はメガホンのみ認めるが、メガホン同士をたたくことや、鐘、太鼓、笛、ペットボトルなどの鳴り物は禁止する。また、投手が投球動作を起こすと同時に、歓声を挙げることもあるが、その度合いが過ぎると判断したときは、当該審判員または大会役員が監督経由で注意を与える。

附則

1. 2004年2月14日より施行する
2. 2016年2月14日より施行する
3. 2017年4月9日より施行する。
4. 2018年4月8日より施行する。